



2015年8月17日

ロンドン外国為替市場における取引通貨の動向

公益財団法人 国際通貨研究所
開発経済調査部 研究員 五味 佑子

2015年7月、海外主要6市場の外国為替取引高サーベイ¹の結果が発表された。これによると、2015年4月の1営業日あたりの取引高は、ロンドン市場は2兆4810億ドルと、2位ニューヨーク市場の8,812億ドル、3位東京市場の3,627億ドルを大きく引き離している。ヨーロッパ時間に加え、アジア、アメリカ時間も多くカバーするロンドン市場に取引が集中しているが、ロンドン市場における取引通貨の最近の傾向をみる。

2015年4月のデータで、取引シェアが公表されている20通貨のうち、先進国通貨（ここでは、IMFの”Advanced economies”の通貨とする）と、それ以外の新興国通貨のシェアを見ると、先進国通貨が183.7%、新興国通貨が9.8%（通貨シェアの合計は200%）と前者が圧倒的である。一方、2010年4月との比較でこの5年間のシェアの増減をみると、先進国通貨が-5.4ポイント、新興国通貨が+3.8ポイントとなっている（差分は「その他通貨」）。

先進国通貨では、米ドルが増加（+4.0ポイント）した一方、ユーロ（-6.2ポイント）、英ポンド（-2.6ポイント）などが減少した。主要通貨のシェアの順位は、1位米ドル（88.9%）、2位ユーロ（39.0%）は不変で、日本円と英ポンド、豪ドルとスイスフランが逆転し、3位日本円（16.2%）、4位英ポンド（15.1%）、5位豪ドル（6.7%）、6位スイスフラン（6.1%）、7位カナダドル（4.1%）となっている。

新興国通貨のシェアは、トルコリラと中国人民元の増加が大きく（前者が+1.0ポイント、後者が+1.4ポイント）、それぞれ2.4%（8位）、1.8%（11位）となった。また、通貨ペアのランキングで見ると、2015年4月の米ドル/トルコリラのペアの取引は1営業日あたり529億ドル、米ドル/中国人民元のペアの取引が432億ドルと、それぞれ8位、9位につけている。（1位は米ドル/ユーロの7,685億ドル）。主要通貨に比べればシェアはまだまだ小さいが、こうした新興国通貨のプレゼンス向上は注目に値しよう。

¹ ロンドン、ニューヨーク、東京、シンガポール、豪州、カナダの各国の外国為替市場委員会が半年に1回公表。ロンドンのサーベイは<http://www.bankofengland.co.uk/markets/Pages/forex/FXjsc/default.aspx>を参照。

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいませ、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。